

佐加太利

平成30年
春夏号
101号

目次

1 点描

2 巻頭言

3 奉祝 酒垂神社ご遷座

4 第十一回

松崎天神縁起絵巻研究会

— 古老が語る —

天神様と私 (1)

「天神様」が燃えている

維新一五〇年特集 (2)

防府天満宮と吉田松陰

崇敬会だより

ギネス世界記録達成

天神おんな神輿写真コンテスト

紅梅殿オーブン

結婚おめでとう

ひたぶる

11・10 社務所だより

天神様の冬から春へ日誌抄

12 これからの祭事行事案内



お酒を振舞われた天神さま

宮司 鈴木宏明


菅原道真公は唐の詩人・白楽天と並び称されましたが、お酒を好む白楽天は「北窓三友」の詩で憂悶を遣る（悩み苦しみをはらう）手立てとして酒・琴・詩の三者を挙げ、それらを「三友」と表しています。一方道真公も「秋思詩」の中でその「三友」を引用し、若い醍醐天皇に仕える身として自分は年老いてしまい充分に君にお応えできないかもしれない、と憂う気持ちを白楽天に倣い、酒を飲み、琴を弾き、詩を吟じ、申し訳なきを慰めたいと詠われました。このような詩をお作りになった道真公ですが、御生涯の中でお酒にまつわる話はあまり聞いたことがありません。それはもともと道真公は酒を嗜好されなかったことに由来しますが、防府の天神信仰では、天神さまがお酒を振舞われた、というお酒にまつわる酒垂神社創建の伝承があります。

菅原道真公の鎮まるこの山の中腹に巨岩があり、その岩間より清水が湧き出て、大古より里の人々に飲料水として使われておりました。

建久六年（一一九五）俊乗坊重源上人が奈良東大寺再建の成就是松崎天神のご加護によると、奉賽の為に御社殿の造営を発願した時、工事に従う人夫達がこの岩水を飲んで渴をいやしつつ工事に励むうち、いつしか岩の水が芳香ある美酒の味に変わりました。人々は社殿造営を喜び給う菅公のご神威によるものと驚き、公のご神徳を仰いで山を酒の垂れる酒垂山、岩を酒垂岩と呼び、その岩を祀って祠をつくり酒垂神社と称したと伝えられ、以来事業繁栄・商売繁盛の神として信仰されております。

この伝承に基づく祠は今でも地元の立市自治会の皆さんによりお世話頂きお守りしております。そして平成十六年八月には老朽化した祠を立市自治会と防府天満宮が協力してお建て替えし、その上でこの度、天神さまとお酒にまつわる伝承をより広く後世に伝えるため、改めて天神山（酒垂山）の中腹より防府天満宮表参道に移設お祀り致しました。祠はもちろんのこと、鳥居や灯籠などできる限りのものを移築しましたので、以前の酒垂神社をご承知の方々も馴染みやすい風景に仕上げることができました。

去る四月八日には立市自治会の皆さんを始め、多くの参拝者と共に遷座祭並びに例祭を斎行、天神さまの御神徳を称えつつ芳香ある美酒を戴くことができました。

※本ページの天地に掲載した（重文）松崎天神縁起絵巻は、全六巻計約75メートルにおよびます。本号ではその  の部分を紹介しています。

酒垂神社ご遷座

さかたり
酒垂神社ご遷座に寄せて

立市地区代表（防府天満宮責任役員） 岸 正人

私は天満宮大鳥居から五十m下「立市」に生まれ、物心がついた頃から天神様を遊び場として育ちました。毎年四月の第二日曜日は、酒垂神社のお祭りで立市中のお年寄りから子供達すべて集まり一日中、花見や余興で楽しかった思い出が目に浮かびます。昭和六十年には、父の跡を継ぐような形で氏子総代となり、早や三十二年が過ぎました。

昨年三月、天満宮より正面参道横に「酒垂神社を遷座させてはどうか」との申し出がありました。びっくりしましたが町内のお一人、お一人とお話しした所、山腹への神社掃除・神事・維持等、地区の高齢化も進み現状を鑑みれば、将来すぐ近くにある方がお世話も行き届き、又天満宮の新しい発展と賑わいが生まれるのならそれもよいのでは…との意見がまとまり全員一致で遷座の運びとなりました。

これからは「水の神様」「お酒の神様」そして「商売繁盛の神様」として酒垂神社が皆様に親しまれ、天満宮表参道の賑わいと発展の一助となるよう心より祈念致します。

当宮ではかねてより表参道の整備事業を進めています。その中で、この度は立市自治会の協力により天神山から酒垂神社をご遷座し事業を一步進めることができました。これからも天満宮の歴史を踏まえ、地域の皆様と共に「心のふるさと」づくりを目指していきたいと考えています。

▼立市地区の皆様が宮司を囲んで（宮司右側が岸氏）



▼来賓の皆様で奉祝の鏡開き。（酒樽は周南市山縣酒造様奉納）



第11回松崎天神縁起絵巻研究会報告

本年二月十七日
歴史館に於いて
研究者十七名参加

重要文化財 松崎天神縁起絵巻
 応長元年(一三二一)に作成された六巻からなる絵巻で、第一巻と五巻は道真公の生涯やご利益話が描かれているが、第六巻に防府天満宮創建に関わる独自の話があり、この地絵巻の魁と言われる。

「中世前期の防府の景観」



元防府市文化財課 課長

よしせ かつやす
吉瀬勝康氏

「絵巻の第六巻には防府の風景が描かれている。制作された際に当時の防府の風景が実際に反映されているのかと度々議論があがっているが、近世以前の防府を描いた絵はない。そこで今回は史料と考古学的な発掘調査から検証したい。まず考古学的な調査から防府は佐波川の堆積により平野が形成され江戸時代の干拓により今の地形となった。また国府が置かれたことにより網目状の条里(区画)が形成、南側には港が置かれた事がわかる。史料からは南北朝時代に書かれた『道ゆきふり』という日記に、防府天満宮正面から港に向かう一本の道、みたらし川と呼ば



▲「防府の向島」、条里のようにな水田、みたらし川(現在用水路)と現在の欄干橋にあたる橋、防府天満宮から海へとつづく一本の道などが伺える。

【松崎天神縁起絵巻 第6巻 松崎社の繁栄】

れる川とそれに架かる橋について書かれている。」などと幾つかの事例をあげ「第六巻の風景は鎌倉から南北朝時代の風景と矛盾がない。絵師が直接防府の風景を見て描いたのかはわからないが、景観を構成する多くの材料・要素・配置は絵師の頭に入っていたと考えられる。」と述べられました。

「周防地方の宗教文化」



奈良国立博物館

情報サービス室長(彫刻担当)

いわい ともじ
岩井共二氏

「本州最西端に位置する長門国・周防国(山口県)の仏像などの仏教美術の多くは瀬戸内海側に偏在しているが、その中でも国府が置かれた防府と長府周辺に集中している。仏像の様式は中央(都)より九州や朝鮮半島に近いため、いわゆる『九州系』と呼ばれる様式が多いと思われるが、『中央(本州)』の様式が多数である。その要因について示唆しているものとして松崎天神縁起絵巻六巻に『この地未だ帝土をはなれず』という詞書があげられる。つまり周防国は都と地続きであることが大きなポイントで、地理

的に九州や朝鮮半島に近くとも、文化は陸続きの中央と繋がっている、そういう土地柄であることを示している。道真公存命中の平安時代だけでなく時代が下ってもその影響(※獅子頭)を見ることが出来る。」ということを幾つかの県内の仏像を例に述べられました。



▶※獅子頭「重要文化財 当宮蔵」 正平十一年(一一三五)修理の銘がありその制作は鎌倉時代に遡ると考えられている。同様の似た獅子頭が愛知県など各地にあることから中央の影響下で制作されたと思われる。

「『天神様』が燃えている」

崇敬者総代 由川 昇 (大正十五年生)



昭和二十五年六月、私は、消防団本部長をしていた義兄の勧めで消防士となった。新米消防士の私に「その出来事」は起こった。

当直日の昭和二十七年四月二十四日午前一時頃、望楼(鉄骨製・高さ約十八mの火の見櫓)勤務の隊員から「天神様の方から『ぼやー』と火が見えるんじゃない」と下の電話当番に連絡が入った。

当時の防府消防署(創立五年目で署長以下四十三名(現在の三分の程度だったと記憶している))は二十四時間隔日勤務の二隊編成で実質人員十六名前後。昼夜を問わず望楼と電話当番を新米消防士が交替で勤務し、夜間は残りの隊員が仮眠を取って待機であった。

櫓の隊員は天満宮の「鳥小屋のように

も見えるんじゃない」と。当時は、高い建物は無く、市中を見渡せたが、何せ夜中で双眼鏡での目視となるとはつきり見えなかった。確かに境内には鳥小屋があり、まさか天神様が燃えているとは思ひもしなかった。とにかく火事で間違いないと待機室に大きなベルを鳴らして隊員を起こし、いつも通りに支度を整えたころ、櫓の隊員が声を荒げ「鳥小屋じゃなーわー!天神様じゃー!」と大声で叫んだ。すぐさま消防車二台に乗り込み、手回しのサイレンを鳴らしながら天神様に向かった。

ところが、こともあろうに天神様前の道路は水路工事でいつもの道が通れない。慌てて国分寺がある東側へ回り天神様を目指した。ちょうど国分寺横を通り過ぎるあたりで天神様の方を見ると赤々とし

た炎がみえた。通常七、八分で着くところを回り路で十、十五分もかかった。

天満宮の東門そばに消防車を止め、門をこじ開けすぐさま放水にかかろうとしたが回廊内は火の海、火の勢いがものすごく中に入れない。仕方なく外より放水開始。近くの放生池よりタンク車を中継し懸命に消火に当たったが、すぐに池の水が無くなるというトラブルに見舞われた。一方、消防署では火災出動と同時に望楼から市内に響く一斉サイレンを鳴らし、署の非番要員・市内消防団十四分団へ出動要請し、現場に集結したが、天神様前の水路は工事中で使用不能、天神山西側の迫戸川から中継に中継を重ねた大変困難な消火活動であった。その頃私は本殿裏を放水。ご本殿の屋根が「炎」とともに崩れ落ちる中、座像らしきものが見えた。一瞬で「『天神様』が燃えている」と思い、大変申し訳ない気持ちでいっばいになった。それでも懸命に消火にあたり、明け方によく鎮火した。ふとタンク車を見ると熱でタンクの塗料が焼けていた。とにかく火の勢いが強烈であった。その後、「天神様」は当時の鈴木健一郎禰宜が運び出したと聞いて安堵した。私が見た座像は「天神様」を護衛する隨身だったようだ。

実は、その年の三月二十五日から四月十五日まで御神忌千五十年大祭が斎行された。その折、拝殿以下を朱色に塗り替

えたばかりで、その塗料が禍して火の回りが早かったようである。また、いつもの道が通行できず到着までに時間がかかったこと、更には水の確保がままならぬ悪条件が重なったことも禍となった。火災の原因は賽銭泥棒のろうそくであったという。

あれから、六十六年。今でもあの「炎」は私の目に鮮明に焼き付いている。

(消防長まで務め、昭和六十一年六月退職)



▶市役所(車塚町)のすぐ裏にあった防府消防署(昭和28年)左上には望楼が見える

防府天満宮と吉田松陰

歴史館顧問 一坂 太郎



長州藩の武士・兵学者・松下村塾の教育者であった吉田松陰。防府天満宮神職・国学者であった鈴木高輅。同じ時代を生きながら違う世界で生きていた二人を巡り合わせたのは「志」でした。この「志」が結んだ二人の交流について防府天満宮歴史館顧問一坂太郎氏にご寄稿頂きました。



▲吉田松陰肖像画
(複製 春風文庫蔵)

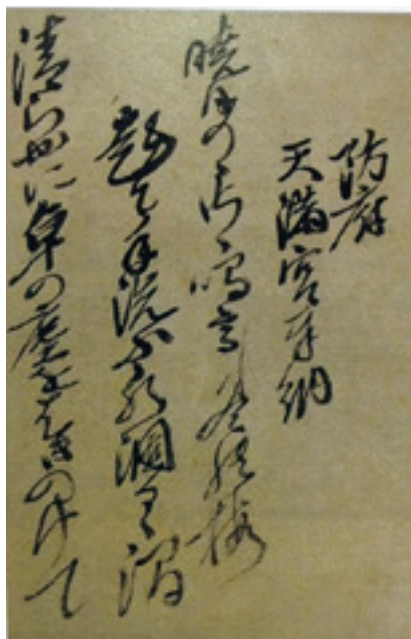
松陰が歌を奉納

吉田家菩提寺である萩市泉福寺には吉田松陰の歌稿が伝わっているが、その中に「防府天満宮奉納」と題された次の二首（一首は後半欠）が書かれている。

「暁ほのゝささ鳴高し冬の梅

起て手洗ふ水濁るゝ潤」

「清らかに卓の塵をはきのけて（以下欠）」



▶防府天満宮奉納の字が伺える。（記録集秋・維新巡礼
〜維新ゆかりの寺を巡るより転載〜）

これは草稿で、奉納されたであろう清書は残念ながら現存しないが、松陰と防府天満宮の繋がりを裏付ける史料として貴重である。興味深いのは松陰が「防府天満宮」と呼んでいることだ。実は江戸時代、現在の防府天満宮には決まった名称は無く、天満宮・松崎天満宮・宮市天満宮などと呼ばれていたが、「防府天満宮」は少数派だった（正式な社号になるのは昭和二十七年）。

鈴木高輅・岸御園との交流

松陰が普公に対し、崇敬の念を抱いていたことは確かであろう。また、防府天満宮神官の鈴木高輅との交流も見逃せない。高輅は伊勢の足代弘訓に国学和歌を学んだ学者で、研究熱心なことでも知られていた。

松陰は安政五年（一八五八）二月二十六日、勤王僧月性（清狂）にあてた手紙で、「防府の天満宮社官鈴木高輅過らる、議論恍惚、一にこれを国風に寄す。けれど尋常の社官にあらざるなり」と、絶賛する。そして「上人（月性）の世の緇流（僧侶）にあらざるを聞くや、一見して志を論ぜんと欲す」という高輅の希望を知らせ、両者を引き合わせようとしている。

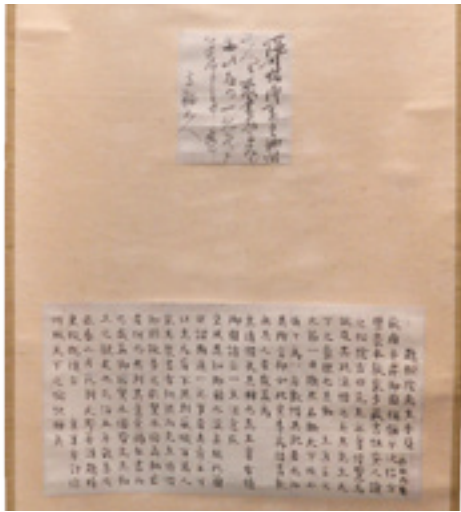
また松陰は、高輅の門下で三田尻に住む岸御園（弥平次）とも親交があった。「毎々玄関迄来り書（書籍）を

借り去り、又珍籍奇書を貸し示す」と松陰は述べており、御園と書籍の貸し借りを行っていたことが分かる。

十年ほど前、私は松陰が高鞆にあてた短い手紙を入手したが、それは安政五年（一八五八）九月、御園が他界したさいのお悔やみ状だった。

松陰は「一人の聚書家を失ひ、亦此道の一欠事」と嘆く。「吉田松陰全集」未収の史料で、高鞆あての松陰書簡はこの一通しか確認されていない。

手紙は軸装されているが、長州藩重役だった天野謙吉あまのけんきちによる「題松陰先生手簡」が付く。「元治五年（明治元年・一八六八）」の二月に書かれたもので、天野は高鞆・松陰・御園を「勤王之親友」とする。最後に「皇軍まさに徳川賊を討つ、天下の愉快極まる」とあるのは、前月、鳥羽・伏見で新政府軍が旧幕軍を破ったことだ。



▶天野謙吉による「題松陰先生手簡」（春風文庫蔵）
松陰書簡と一つの軸に表装されている

「蛙」がキーワード

高鞆と松陰を結び付けるキーワードは「蛙」である。松陰の対外意見書が梁川屋巖を通じて孝明天皇に

届いたと知るや、高鞆は、

「忍びては鳴くとはすれど雲の上に

蛙の声の聞えけるかな」

と詠み、喜ぶ。「蛙の声」とは本来、下らぬ議論や下手な文章の意味だが、この場合は相手が「雲の上」の天皇なので謙遜しているのだ。

安政六年、「安政の大獄」に連座した松陰は、幕府の命により駕籠で江戸に送られる。道中で詠んだ歌を集めた『涙松集』によると、五月二十五日、松崎天満宮の前を通るや「菅公廟」の題で

「思ふかな君がつくしのこゝろしは

賤があづまの旅につけても」

と詠み、太宰府（つくし）に流される菅公と、関東（あづま）に送られる自身の心情を重ねた。つづいて高鞆の家の前を通り、「鈴木大人におくる」の題で

「君こそは蛙鳴く音も聞きわかん

公のためにかおのがためにか」

と詠んだ。先年の高鞆の歌に対する、返礼であろう。これに対し高鞆は

「ひそみても鳴とはすれど天にさへ

蛙の声のきこえけるかな」

と返した。



全国で響き出す「蛙の声」が、時代を大きく動かし、それが「明治維新」だ。それは、松陰が唱えた「草莽崛起」にも通じるものがある。だが、松陰は同年十月二十七日、江戸伝馬町獄で刑死（享年三十）。それから半年後の万延元年（一八六〇）四月四日、高鞆も四十九歳で他界。二人とも新しい時代をその目で見ることとはなかった。

※草莽崛起 松陰が下級武士に対して「身分に関係なく志を持った人々が一斉に立ち上がり、改革を成し遂げよ」と唱えた思想。



▲御園廻御行程記（山口県立文書館蔵）に描かれている江戸時代の天満宮。松陰は、江戸に送られる際に天満宮の前で歌を詠んだ。左右に延びるのが山陽道

崇敬会だより

●第十回研修旅行（三月五～六日）

本年は維新一五〇年にあたり、山口県と薩長同盟を結んだ鹿児島県を訪問。正式参拝した照国神社では御祭神・島津斉彬公より四代目の第三十二代当主島津修久宮司様にご挨拶を賜り、南洲神社では西郷隆盛と薩摩の志士達の墓前にも参拝しました。また、西南戦争の激戦地・城山では、「晋どん、晋どん、もう、こちらでよか」と死を覚悟した西郷どんの最後の言葉に思いを巡らせ、今も変わらぬ桜島を後にしました。



▲照国神社正式参拝福田百合子会長以下26名参加
島津宮司様（写真中央）、田原権宮司様（前列左）

●第十七回崇敬会大祭（五月一日）

本年は、四十七名参列のもとに斎行。総会では十回参加の星野宏様、光元アキエ様の二名が表彰され、その後崇敬会活動を中心とした当宮の一年間をDVDにより報告致しました。また、鈴木宮司はこの度神社本庁より、神職身分浄階一級

を授与されたことに「長年に亘り崇敬会の皆様のお支えの賜物」と感謝の言葉を述べました。



●現在崇敬会には559家族1854名ご入会頂いております

新規会員紹介

平成二十九年十二月一日以降
入会の方々です。（敬称略）

家族会員

武田 通 防府市八王子
兼安五男 防府市新田
岩崎 浩 鳥取県米子市
井上照子 周南市戸田
植松 昶 防府市国衛
吉松伸一郎 山口市大内矢田南

個人会員

古城明枝 防府市警固町
岡田哲夫 山陽小野田市
関 勝美 防府市平和町
清水忠昭 広島県庄原市

※崇敬会入会ご希望の方は、同封の崇敬会のすずめをご覧下さい。

TOPICS 幸せますフェスタおんなみこし連合渡御 祝・ギネス世界記録達成！

幸せますフェスタおんなみこし連合渡御は、GWに併せ「防府天満宮天神おんな神輿」を中心に防府市を「おんなみこしの聖地」として防府市を全国に発信しようと平成27年より防府商工会議所が中心となり始められました。4回目となる今年は4月29日、更に盛り上げようとギネス世界記録（60基以上の神輿が間隔を開けずに100mパレードする）に挑戦。天神おんな神輿を始め、県内外のおんなみこし7団体、企業団体など全91団体、計100基・約1,800人が参加しギネスは見事達成されました。



▲楼門前で行われた認定式。認定書を掲げる
喜多村防府商工会議所会頭（写真中央）

第三十回（平成二十九年）

天神おんな神輿写真コンテスト

●防府天満宮賞

「声心ひとつに」

防府市 杉本 沙耶

●防府市長賞

「団結」

熊毛郡平生町 野村 和彦

●防府商工会議所会頭賞

「天神スマイル」

宇部市 桶田 敏治

●防府市観光協会会長賞

「笑顔あふれる」

防府市 於土井 豊昭

●防府天神祭振興会奨励賞

「祭りの少女」

周南市 久原 靖史

その他入選作品
（敬称略）
三〇点

応募総数 一九九点

たくさんのご応募有難うございました。

境内に総合休憩所「紅梅殿」オープン!

防府天満宮紅梅殿は直営のお食事・お土産処更に「赤ちゃんの駅」を備えた総合休憩所として、本年三月二十五日、ランドオープン致しました。お気軽にご利用下さい。今後は各種イベントも開催したいと考えています。

「山大グッズで 学業成就」

オープンを機に山口大学と提携。標記をテーマに、学外で初めて山大グッズを販売することとなりました。商品には、コクヨと共同開発した山大ノート、山大饅頭やヤマミイのぬいぐるみなどを取り揃えております。

又、山大農学部付属農場で育てた米を使用した清酒「長州学舎」も販売しております。



オープニングセレモニーでは、総代他関係者が参集の中、山口大学岡正朗学長（写真左）より祝辞、鈴木宮司の挨拶に続き、山大のマスコットキャラクター「ヤマミイ」が、山大グッズを紹介してくれました。

ご結婚おめでとう

平成30年（神社奉式分/敬称略）

2月10日	金子敦・祐子
11日	福田侑祐・美江
17日	弘中淳一・史子
3月3日	佐々木大輔・彩香
4日	佐々木惇也・明子
4日	河本悠規・里紗
10日	竹原隆・優貴
18日	徳永己之博・恵子
18日	坂本龍之介・めい
18日	石本啓太・茜
18日	高野直也・京子
18日	田中陽一・彩
18日	照喜名信吾・友香子
18日	大林祐太・美沙枝
18日	大庭翔大・智代
24日	篠原敬一郎・紗矢香
29日	用原正和・翠
30日	檜垣大介・慶子
4月1日	賀谷靖彦・祐子
7日	山口雄大・彩香
7日	垣内雄多・由佳
7日	阿曾沼和義・潤子
14日	内藤孝泰・加奈
15日	武・貴子
15日	田村祐輔・祐未
21日	宮岡匠・有紗
28日	竹中雅俊・美沙子
30日	長峰正浩・有佳
30日	廣中聖一・由紀恵
30日	内山舜也・静香
2日	南明莉・咲恵
2日	東野惣一郎・朋子
2日	藤田洋志・理紗
3日	吉村良豊・藍
6日	磯部邦生・温子
6日	竹下茂良・美里
12日	渡邊太郎・恵梨香
19日	桑原健人・美佳
19日	金子敦・博子
19日	野尻義智・明日香
19日	長谷俊・さやか

お二人の末永い幸せをお祈り致します
※神前結婚式のお申込みは随時受付けておりますので、社務所へお問い合わせ下さい。

ひたぶる

権禰宜 村松大樹

「わあ!きれいだ!!」と参拝者がスマホやカメラのレンズを向けた先にあるのは当宮表参道大石段を彩る「幸せます」の花文字である(表紙写真)。
この花文字は「防府天満宮大石段花回廊」という催しで、五月連休(防府市では幸せますウィーク)中に防府を訪れる観光客のおもてなしとして六年前から始まった。実施にあたっては、防府商工会議所が中心となり、花づくりには県立農業大学校、デザインは山口大学、設置は防府市・造園組合や防府観光コンベンション協会、花がら摘みは市内の中学生や高校生・当宮敬神婦人会等、様々な人の陰の協力が絶大である。
だからこそ、そのレンズを向ける歓喜の姿に実行委員も当初より催しに携わる私も苦労が報われる。
これからも幸せますウィークに防府を訪れる多くの方々に防府天満宮「花回廊」が親しまれるよう地域一体となって頑張っていきたい。

節分祭



▲歳男歳女37名が熊本県の営業部長「くまモン」他ゆるキャラ等と共に豆撒き奉仕

牛替神事では、今秋御神幸祭「神牛役」が以下の通り決定。

- 牝牛 防府市牟礼 田谷 斗希也 氏
- 牝牛 防府市田島 清水 興亜 氏

御正祭



▲本年よりご奉仕の「日本料理中しま」の中島英晶氏（写真提供：ほうふ日報）



▲お供えした平安時代のお食事（一部）

代のお食事をお供えし、御神霊をお慰めました。
を斎行。御祭神「菅原道真公」の薨去日にあたり、公を偲び平安時

日誌抄（平成三十年）

毎月1日、15日、25日は月次祭

毎月1日は朔日詣り（朝粥会）、毎月25日は天神市（縁日）

1月1日 歳旦祭

1～3日 書き初め会、梅茶接待

1～8日 天神おんな神輿写真展

5日 新始式

7日 七草粥の会

8日 弓始式

9日 山口宇部空港受験合格祈願大絵馬設置

10日 岩国錦帯橋空港受験合格祈願大絵馬設置

11日 貞宮遙拝式、鳥取空港受験合格祈願大絵馬設置

12日 役員就任奉告祭、米子空港受験合格祈願大絵馬設置

17日 役員就任奉告祭

18日 梅開花宣言

26日 役員会

25日 月次茶会表流長崎清流会ご奉仕

31日 愛知県神社庁西尾幡豆支部70名様正式参拝

2月2～3日 節分祭並びに第二〇七回牛替神事

4～10日 牛替神事福運者当籤番号券景品引換

10日 牛替神事神牛役当籤者神牛引き渡し

11日 紀元祭（建国祭）、人形感謝祭人形受付開始

12日 第41回防府お針祭

13日 徳島県神社庁鳴門支部6名様正式参拝

17～18日 第十一回松崎天神縁起絵巻研究会

17日～3月5日 全国陶器市（梅林駐車場）

2月18日～3月4日 第十三回梅まつり

（期間中土日開催敬神婦人会甘酒接待、

出世梅無料配布、山縣酒造梅酒試飲会）

18日 梅まつり始祭稚児舞紅わらべ奉納

23～25日 池坊防府支部奉納生花展、脇本定三

追悼展、間鍋竹土作陶展、山城屋茶

舗京の陶磁器展、手作りアクセサリー

「Hoto」アナタニハナラフ、平井佳

世布小もの作品展

25日 梅花祭稚児舞奉納、梅まつり茶会表

流山本百次会ご奉仕、中山歌翠社中

琴演奏会、天神芸術村開催

3月4日 文化講演会当宮歴史館顧問一坂太郎氏

3月1日 人形感謝祭

1～5日 人形里親探し

2日 役員会

3日 安場幸子様桜苗木二十本奉納

5～6日 崇敬会旅行（鹿児島県照国神社、南洲神社）

15日～5月31日 合格御礼奉告祭

15日 防府北基地第73期生卒業奉告並航空自衛隊

安全祈願祭

21日 春季祖霊大祭

24日 市四季の花構想記念植樹祭

天神様の冬から春

梅まつり

催されました。

が行われ、梅花祭を始め期間中、人形感謝祭等様々な諸行事が開



▲[梅花祭] 役員総代が見守る中、市内の小学生らが御神前に稚児舞「紅わらべ」を奉納した。



▲[人形感謝祭] 長年可愛がってきた人形をお祝いの後、希望者に里親として引き取って頂いた。

金鮎祭

(神仏合同奉仕)を齋行。佐波川漁業組合が解禁前に特別に捕獲した若鮎十二尾を御神前に供え、御神慮をお慰め致しました。この祭典は菅公左遷の折、この国の隆昌を祈って菅原家宝「金の鮎十二尾」を周防国分寺にて国司に託された故事に因むもので、今年も、五年ぶりに「金の鮎」十二尾が歴史館で公開されました。



▲宮司と国分寺副住職が若鮎を御神前に供えた



▲特別公開された「金の鮎」

責任役員就任のご紹介

(敬称略)

中村 顕 一月十二日付
潮 貞勇 一月十七日付

新入職員紹介



巫女 國弘愛結
(防府市出身)



巫女 三尾奈穂
(防府市出身)

宜しくお願い致します。

24・25日	月次花展池坊花雅会奉納 春祭、総代会、紅梅殿OPセレモニー山口 大学コラボ記者発表、月次茶会池坊花雅会 ご奉仕
27日	天神おんな神輿三十周年記念祝賀会
28日	防府天満宮勝ち牛杯氏子対抗ゴルフ大会 桜開花宣言
31日	清掃奉仕ピノッキースパティオ防府店9名様 御神忌一二年御正祭
4月1日	新入児童勸学大祭稚児舞紅わらべ奉納 茶筌祭、華月会茶会、紅梅殿正式開店 防府菊花会総会並び正式参拝
7日	酒垂神社遷座祭並び例祭併せ奉祝行事 北九州予備校約180名合格祈願祭
8日	植樹奉納奉告祭中島桜様誕生記念
10日	千年のまちほうふ幸せまますウィーク2018 「第六回防府天満宮大石段花回廊」約8 00鉢設営(5月6日まで) 期間中清掃・ 花ガラ摘みボランティア奉仕佐波中学校 様、防府天満宮敬神婦人会様
18日	兵庫県神社庁小野市加東市神社総代会12 3名様正式参拝、天神おんな神輿説明会(N HKアサイチ密着取材)
19日	月次茶会裏千家小松田宗泉先生ご奉仕、 防府市立市地区正式参拝
22日	広島工業高校39名様合格祈願祭 第四回「春の幸せまますフェスタ2018」 おんなみこし連合渡御神輿奉納、毛利家春祭 崇敬会大祭
25日	千年のまちほうふ幸せまますウィーク20 18「お茶と灯りのコンサート」於茶室 芳松庵
27日	出演「現代風民謡ユニット「ネオバラッド」 BALLAD」
29日	出演「シャランソンの夕べ」松崎雅子&脇 淵陽子
5月1日	出演「RedジャズシンガーVIVID」
5月1日	出演「ソレイユトリオM3ハタス」新緑 の雅奏
5月1日	出演「雅会」邦楽演奏会
5月1日	花回廊プランター販売
5月1日	広島県敬神婦人会61名様正式参拝
5月1日	神仏合同金鮎祭、黄金の鮎十二尾特別公開
5月1日	金鮎祭茶会裏千家高橋宗信先生ご奉仕
5月1日	防府天満宮青年部若梅会総会並び正式参拝、 敬神婦人会総会並び正式参拝
5月1日	国交省観光庁観光地域振興部長村猛氏参拝 会計監査
5月1日	防長海軍慰霊祭並びに奉納剣道大会、防府 天満宮神道家まほろば会研修旅行(下関市 櫻山神社)
5月1日	月次茶会表流山本百次会ご奉仕
5月1日	防府天満宮供養委員会総会並び正式参拝 役員会

お茶と灯りのコンサート



▲1日の現代風民謡ユニット「ネオバラッド」

天神様から「幸せます」
※幸せますは山口の方言で「ありがたい」とか「嬉しく思う」との意味があります。

奉納品
ご奉納有難うございました

- 12月21日 車椅子 二台 (株)サニクリン 中国様
- 3月3日 桜苗木二十本 安場幸子様
- 3月25日 桜木 一本 中島 桜様

境内清掃奉仕
ご奉仕誠に有難うございました。
ピノッキースパティオ防府店様

六月三十日(土)

御田植祭並びに輪くぐり神事

午後四時

午後二時



▲御田植祭

※神事終了後、早乙女役の巫女が植えた苗を競って持ち帰り、自身の水田の害虫・病気除けとします



▲輪くぐり神事

※同封の案内状をご覧ください

七月二日(日)～七日(土)

七夕まつり

祭事行事予定

- 一日～七日 光の齋庭(牛乳パック灯籠と傘玉アート)
- 一日 筆まつり並びに七夕まつり書道展表彰式
- 七日 七夕茶会、おりひめ★ひこぼしコンサートなど

山口の日本酒利き酒まつり
七夕祈願祭 祈願料…二〇〇〇円



※同封の短冊にお願い事を書いてご奉納ください。
また【光の齋庭】の牛乳パック灯籠も併せて募集しております。作り方は防府天満宮ホームページをご覧ください
ただか、右記のQRコードをスマートフォンで読み取ってください。

平成30年 夏・秋 これからの祭事行事

八月三日(金)～五日(日)

御誕生祭

御祭神「菅原道真公」のお誕生日をお祝いするお祭り



～御誕生祭献灯のお願い～
会社・団体名・個人名入り致します。

初穂料:1灯につき3,000円

ご希望の方は、申込用紙をお送り致しますので、社務所までお問い合わせ下さい。申込用紙に必要事項をご記入の上、ご郵送又はFAXでご返信願います。

祭事行事予定

- 三日～五日 万灯の夕べ、献灯ボンボリ点灯、ビアガーデン、こどもクイズラリー、子ども花火まつり
- 三日 奉納清書展奉納奉告祭、万灯祭、剣道大会、納涼カラオケ大会
- 四日 豊穰祈願祭、古武道大会、柔道大会、夫婦円満祈願祭(餅まき)
- 五日 御誕生祭当日祭、少年剣道大会、弓道大会、夏祭り大花火大会

十月 十四日(日)

花神子社参式

十一月 二十四日(土)

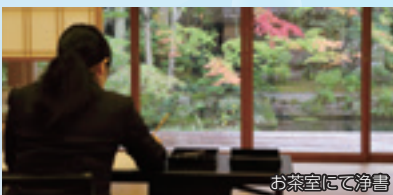
御神幸祭(裸坊祭)

十二月 中旬

報賽祭(天神おんな神輿奉納)

大祓詞浄書会(四回開催予定)

大祓詞浄書会(四回開催予定)



時 間…十時～十五時(予定)
会 場…御殿・お茶室(茶室の一室を貸し切っております)
玉 串 料…一万円
※昼食は料亭「中しま」の特
別料理を用意いたします
募集人数…一日限定四名(先着順)
浄書は筆で書いていただきますが、薄
墨印刷で下書きされていますので簡
単に書き写せます(筆はお持ち帰り
いただけます)
※日程は決定次第HP等でお知らせ致しま
す。詳しくは社務所へお問い合わせ下さい。

さかたり第101号
平成30年 6月 1日発行

発行所 防府天満宮社務所

〒747-0029山口県防府市松崎町14-1
TEL 0835-23-7700 FAX 0835-25-0001

防府天満宮

検索

facebook

twitter